

令和２年度生活支援体制整備事業第１回第１層協議体(ＷＥＢ会議)会議録

議題	(１) 講演 居場所づくりを考える (２) 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 実績報告 (平成３０年度～令和２年度) (３) 意見交換 (４) その他
日時	令和３年３月２日（火）１５時００分から１６時４０分まで
場所	分庁舎２階 福祉部会議室、本庁舎３階 建設部会議室 本庁舎４階 会議室１ ※ＷＥＢ会議に接続できない場合を考慮し、茅ヶ崎市役所に複数 拠点を設置
出席者氏名 (敬称略)	(ＷＥＢ会議により出席) 松井 新吾、平本 哲也、杉田 司、高田 麗、菊池 利枝、 習田 祐子、土屋 和美、渡辺 多茂夫、小山 紳一郎、 藤尾 直史 (茅ヶ崎市役所内の拠点より出席) 菅野 京子、鈴鹿 隆司、三觜 健一、大川 寿之、臼井 高之 吉川 宗孝 (欠席委員) 柏崎 周一、矢島 啓志、澄川 篤 (事務局等) 熊澤 克彦、原 鮎子、遠藤 駿、東方 明美、吉武 泉、 太田 雅世、加藤 絵里、木下 広子
会議資料	・ 次第 ・ 【資料１】居場所づくりを考える ・ 【資料２】茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 平成３０年度～ 令和２年度 活動報告
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数 (公開した場合のみ)	０人

1 開会

○（茅ヶ崎市福祉部 熊澤 克彦 部長）

本日は、何かとご多用な時期にもかかわらず、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 令和2年度 第1回 第1層協議体にご出席いただき誠にありがとうございます。現在、緊急事態宣言が発出している中において、感染拡大が懸念されるところでもあり、今回、初めてWEB会議も取り入れながらの開催とさせていただきました。オンラインで出席されている方々におかれましては、事前の接続テスト等、ご協力いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に暗い影を落としている中で、皆様の地域活動についても中止や延期または縮小を余儀なくされている状況かと存じます。地域のミニデイ・サロンの状況を見ましても、昨年11月頃までは、再開に向けた準備を進めていたところがありました。年始の緊急事態宣言発出により、見直しを迫られる地区も数多くございます。今後は新しい生活様式に合わせた地域福祉活動を模索していく必要があります。

本日は、第1層協議体構成員である小山紳一郎様から、「居場所づくりを考える」と題して、コロナ禍の中での様々な取組について、事例を含めご講演をいただくことを予定しております。是非、皆様の地域活動の参考にしていただければと思います。第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の計画期間に合わせて平成30年度から令和2年度までの3年間、皆様には第1層協議体構成員としてご協力をいただきました。本当にありがとうございます。今回の会議では、これまで3年間の活動について振り返るとともに、今後の活動に向けてご意見をいただく時間を設けております。本日は、この3年間の節目の会議でもありますので、是非、皆様の経験や知見を踏まえ、積極的なご提案をいただければ幸いです。最後になりますが、本日は、初めてのWEB会議ということもあり、進行上ご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご理解ご協力のほどお願いいたします。

2 議題

（1）講演 居場所づくりを考える

○ 講師 特定非営利活動法人NPOサポートちがさき

茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 第1層協議体構成員 小山 紳一郎

・本日は「居場所づくり」をテーマに講演させていただきます。内容は大きく5つあります。

- ①市民活動サポートセンターの役割
- ②地域の居場所づくりに着目した理由
- ③地域の居場所づくり交流会の目的と内容
- ④茅ヶ崎居場所づくりネットワークの概要

⑤オンラインで交流できるツールの紹介

・①市民活動サポートセンターの役割

市民活動サポートセンターは19年前に設立されました。NPOサポートちがさが運営を担っています。サポートセンターには5つの役割があります。

- 1 場の提供
- 2 情報収集・発信
- 3 相談・コーディネート
- 4 人材育成・交流促進→地域の居場所づくり
- 5 連携・協働の促進→地域の居場所づくり

地域の居場所づくりは、上記の「4」と「5」に関わる取組です。

・②地域の居場所づくりに着目した理由

地域の居場所づくりに着目した理由は、居場所が様々な生活や政策分野との繋がりを持ち、多様な切り口からまちづくりを考えることのできるマジックワードだからです。障がい者の居場所としての農地の活用であれば、農地活用と福祉就労として市の農業水産課、障がい福祉課、雇用労働課をはじめ、社会福祉法人、さらにはNPOとの繋がりが出てきます。次に、空き家や空き店舗活用を例に考えてみましょう。一方で居場所スペースが欲しいというニーズがあり、一方で空き家や空き店舗を活用したいというシーズ（種）があります。居場所づくりに関わる市役所の部署には高齢福祉介護課、障がい福祉課、子育て支援課といった部署があり、空き家・空き店舗活用に関しては、都市政策課や産業振興課などの部署があります。この2つの政策分野を繋ぎ、横串を刺すのが「居場所づくり」というキーワードではないでしょうか。

・③地域の居場所づくり交流会の目的と内容

地域の居場所づくり交流会は3つの目的があります。

- 1 居場所づくりの悩み課題の共有
- 2 実践事例の共有とアイデアの交換
- 3 居場所運営者のネットワークづくり

地域の居場所づくり交流会はこれまで5回開催しました。本日は私が企画に係りはじめた第2回以降の内容を紹介します。第2回では、横浜市今宿地域ケアプラザの地域交流コーディネーターの真鍋氏を講師に迎えました。真鍋氏は民間企業から福祉分野に転職しました。真鍋氏はコーディネーターに着任して早々にケアプラザ事業への男性高齢者の参加者が極めて少ないことに気づき、なんとかしたいと思ったのです。早速、関連分野の調査報告書に目を通す、各地に出かけるなど様々なリサーチを行いました。その結果、真鍋氏は本格的なサイフォンコーヒーを味わいながらアナログレコードを鑑賞する取組を行うことで、男性高齢者をケアプラザで開催する「くつろぎ

カフェ」に呼び込むことができると考えたのです。そのためにLPレコードとステレオセットを募るチラシを地域に配布したところ、1か月で600枚以上のレコードとステレオセット3台が集まりました。また、並行して地元の喫茶店マスターを講師に依頼し、コーヒーボランティアの養成講座を開催してコーヒーボランティア団体を結成しました。今では、このコーヒーボランティア団体がくつろぎカフェの度にコーヒーを淹れてくれています。こうした取組の結果、これまで数パーセントだった高齢男性の参加者が30パーセントに急増しました。さらに、くつろぎカフェで知り合った高齢者同士が登山に行ったり、写真仲間になったりなどの繋がりができました。

続いて、第3回の内容を紹介します。『コミュニティカフェ まちの居場所のつくり方、続け方』という本があります。著者の齋藤氏は、10年以上前に横浜市港南区の商店街にコミュニティカフェを立ち上げたこの分野のパイオニアです。

現在、横浜市内には10を超えるコミュニティカフェがあります。運営方法などの情報交換を目的とした横浜コミュニティカフェネットワークという団体が結成されています。コミュニティカフェとは、人と人を結ぶ地域社会の場や居場所の総称と定義されています。普通のカフェと違い、飲食を第一の目的とせず、地域住民が集い、交流し、情報交換することを重視しています。第3回居場所づくり交流会では、ゲストとして横浜市旭区でコミュニティカフェ「ハートフル・ポート」を運営する五味氏をお招きしました。カフェ「ハートフル・ポート」は、毎月様々なイベントを開催しています。昨年12月は、SDGsという固い話題からウクレレや昭和歌謡、誰でもコンサートという趣味の講座を開催しました。実に様々なイベントが開催されていることが分かります。私も何度かカフェハートフル・ポートに行ったことがあります、とても居心地の良いところでした。多くの方がこのカフェで出会い、繋がっています。横浜市の地域ケアプラザなどの公的機関との繋がりも有しているため、人と人のネットワークがどんどん広がっています。

第4回の居場所づくり交流会では、『あそびの生まれる場所』という本の著者である「ハンズオン埼玉」の西川正氏に講師としてお越しいただきました。西川氏は、「遊ぶ」と「学ぶ」の場づくりの方法を長年研究しています。第4回は、3つの事例発表、西川氏の講演、ワールドカフェ風の交流会を行いました。ここで、西川氏の実践を紹介したいと思います。西川氏は寒い季節になると焚火のできる場所を探し「焼き芋タイム」を開いています。また、西川氏は、日本七輪学会を立ち上げ、七輪を媒介に人と人の出会いの場を作っています。西川氏は空き地や道路などのパブリックな場を上手く活用し、遊び心のあるイベントを仕掛け、居場所づくりを楽しんでいます。

事例紹介では、鶴が台団地の「みんなの居場所」を取り上げました。みんなの居場所は、団地内のカフェを利用した「カレーの日」を定期開催しています。多世代交流

と商店街活性化を同時に実現している取組です。さらに、この活動で出会った4人のママさんたちが「Genki プロジェクト」を立ち上げました。子ども用品のリユース会、多世代が交流できるフェスティバル、オンラインサロンなど子育て世代ならではの活動で地域発展に貢献しています。

この第4回地域居場所づくり交流会は大変盛り上がり、茅ヶ崎居場所づくりネットワークの誕生につながりました。

・④茅ヶ崎居場所づくりネットワークの概要

第4回地域居場所づくり交流会の終了時に、日ごろから情報交換をするネットワークづくりへの参加を呼び掛けたところ、十数人からネットワークへの参加希望があり、さらにTさんがリーダーに立候補してくれました。その後新型コロナウイルス感染症の影響で設立時期が遅れましたが、令和2年4月20日に発足しました。組織ではなく、個人がゆるやかに繋がるネットワークであり、代表以外の役員はいません。茅ヶ崎居場所づくりネットワークの目的は4つあります。

- 1 居場所運営の悩み・課題の共有
- 2 居場所運営に関する実践ノウハウの共有
- 3 居場所運営初心者へのノウハウ提供
- 4 運営者同士の横のつながりづくり

令和3年2月末時点での参加者は42名、参加希望者が3名です。コロナ禍ということもあり、普段はフェイスブックで情報交換をしています。しかし、それだけでは寂しいので、Zoomでの近況報告会を2回、対面でのオフ会を夏に1回、みんなの居場所びすたーり（南湖に新設された多世代交流型の居場所）への訪問ツアーを1回実施しました。

一般に、生きがいのある生活には、「居場所」と「出番」が必要と言われます。市民活動サポートセンターでは、居場所づくりの支援と、市民と市民活動を繋いで出番をつくる活動をしています。市民の出番づくりに対し、市民活動サポートセンターができることは非常に限られています。そこで、本日のこの会議に出席されている福祉の関係機関・団体や地縁団体の皆様と連携・協力しながら居場所と出番づくりを支援していきたいと思います。

・⑤オンラインで交流できるツールの紹介

オンラインで交流できるツールは、「Zoom」「S k y p e ビデオ通話」「M e s s e n g e r ビデオ通話」など様々ですが、問題は高齢者がこれらを使いこなすことができるかということです。現在、市民活動サポートセンターではパソコンボランティア湘南と連携して市民活動団体スタッフへのICT支援を月2回、半日以内で実施しています。市民活動サポートセンターの活動範囲は条例等の制約があるため、誰にで

もICT支援が出来るわけではありません。たとえば個人の生涯学習としてのICT支援は、守備範囲外です。将来的には、関係機関と連携して高齢者を含めた情報弱者と呼ばれる人々をサポートするための体制を整備したいと考えています。では、今後どのような取組が必要になるか。SDGsに「No one will be left behind」という言葉があります。情報弱者をサポートするためのネットワークサポートとして、たとえばZoomを使って情報交換をする場合、参加者全員がPC・タブレット・スマホを所有していなくても、個人宅や公共施設に集合することでパソコンを見たり、あるいはスクリーンの画面に映し出された映像をみながら他の参加者とコミュニケーションをとることができます。本日の会議もまさにこの形式です。オンラインとオフラインを組み合わせた「ハイブリッド型」の仕組みを用意することで、コミュニケーションに参加しにくい人にも対応することが出来ます。パソコンボランティアなどのサポートを通じで一人一人のICTリテラシーを向上させることに加え、オフラインでもネットワークにつながる環境を構築することが重要です。居場所が、物理的な場ではなく人と人のつながりだとすれば、コロナ禍の繋がり支援にはオンラインの活用が不可欠ではないでしょうか。

<質疑応答>

○ 茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会 菊池 利枝

地域包括支援センターの職員がNPOサポートちがさきのICT団体支援を利用することは可能ですか。

→○ 特定非営利活動法人NPOサポートちがさき 小山 紳一郎

サポートセンターのICT支援は、市民活動団体を対象に始めた事業であり、地域包括支援センターは対象として想定していませんでした。しかし、地域包括支援センターの事業は公益性が高く、広義のまちづくり事業と考えることができるため、市の所管課である市民自治推進課に確認したうえで、地域包括支援センターの職員も利用可能となるよう支援対象を拡大したいと考えています。

(2) アンケート調査結果を活用した取組状況

○ 茅ヶ崎市高齢福祉介護課 吉川 宗孝

・【スライド2】

生活支援体制整備事業は、第7期計画に基づき、本市では平成30年度から本格的に実施した。第7期計画は平成30年度から令和2年度の3年間の計画です。今年度（令和2年度）はこの事業にとっても一つの節目となります。ここで、過去3年間の活動

を【資料2】茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 平成30年度～令和2年度 活動報告をもとに振り返り、今後の第8期計画の取組について考えていきます。時間も限られているため、主な点のみ触れさせていただき、それ以外の内容については後ほど資料をご確認ください。

・【スライド4】

まず、平成30年度の活動を振り返ります。平成30年8月に、第1層協議体の構成員の皆様にお集まりいただき、初の第1層協議体を開催しました。この会議では、事業の方針などを共有し、そのうえで、より多くのご意見をいただきたいと考えていたため、グループワーク形式での意見交換を行いました。この結果、生活支援体制整備事業として具体的にどのような取組をすべきかについて、ここでの議論をきっかけに、後ほど取り上げる「外出に関するアンケート調査」などの取組に繋がりました。

・【スライド7】

第2層地域支え合い推進員の配置と主な活動について説明します。資料の各スライドで、タイトル部分が薄いピンク色のものは第1層の活動であり、このスライドのように青色の帯は第2層の活動です。その点を踏まえてご覧ください。

第2層（市内13地区）については、茅ヶ崎市社会福祉協議会に委託を行い、推進員を配置していますが、本事業に係る要支援高齢者等の課題把握やそれらの課題解決に向けた活動について、地区の皆様と共有や検討を行いました。地区担当職員は第2層推進員としての肩書を持ちながら、地区社協の会議をはじめ、まちぢから協議会、コーディネーター配置事業の地区支援ネットワーク会議、地域ケア会議等の様々な会議に、地区の状況に合わせて参加し、地区内の課題についての提起や情報提供などに努めています。なお、1層・2層の推進員は、月1回、定期的に会議を開催し、活動を共有しながら取組を進めています。

・【スライド8】

先ほど述べた第1層協議体でのご意見等を踏まえ、地域に暮らす高齢者の支援を考えるうえで、まずは日常での困りごとを把握するために、高齢者の「外出」に関するアンケート調査を実施しました。この調査結果は、報告書として冊子にまとめて配布をしています。この報告書は、高齢者の困りごとの把握だけでなく、地域での課題の共有など様々な用途で活用いただいています。

・【スライド9・10・11】

このほか、説明は割愛しますが、第2層の活動として、地区社協研修会の研修を活用した研修実施するとともに、事業報告会を開催するなど、まずは、本事業の周知活動や事業の土台作りに努めました。以上が平成30年度の活動です。

・【スライド12・13】

続いて、令和元年度の活動を振り返ります。事業の名称が「生活支援体制整備事業」という、馴染みにくい名称のため、第1層協議体構成員の皆様にも協議いただいた結果、事業の愛称が「ささえ愛♡ちがさき」に決定しました。また、ささえ愛♡ちがさきのマークも作成し、市民まなび講座などで事業を紹介する際など、様々な場面で活用をしています。

- ・【スライド17】（スライド14～16は割愛）

本事業の大事なポイントの一つである社会資源の把握の一環として、市社協のネットワークを活かし、第2層の活動として市内のサロンから活動情報シートを使用して情報収集を行いました。収集した情報は、「ミニデイ・サロン一覧」として取りまとめ、市社協のHPに掲載しています。また、後ほど取り上げる「地域包括ケア支援システム」というデータベースにも搭載して、インターネット上で検索できるような仕組みも構築しました。

- ・【スライド20】（スライド18・19は割愛）

第1層協議体構成団体の関係者等を対象として、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業の報告会を、地区社会福祉協議会連絡協議会研修会と共催という形式で開催しました。

ここでは、取組事例として湘南地区のおでかけワゴンについて、そして松林地区におけるイベント時の移動支援の取組について、それぞれご報告いただきました。各地区においても、外出や移動に関する課題を抱えていることもあり、報告会では、多くの質問や感想が寄せられました。各地区における取組の参考になったと感じています。令和元年度の主な活動は以上となりますが、この頃から新型コロナウイルス感染症が徐々に世の中を覆いつくし、私たちの日常生活も大きく変化しました。

- ・【スライド23】

続いて、令和2年度の活動を振り返ります。令和2年度は、まさに新型コロナウイルス感染症とともにあった1年間と言えます。現在も神奈川県は緊急事態宣言下であり、今後もすぐには収束には至らない状況にあります。コロナ禍において、私たち地域支え合い推進員としても、今後の事業展開をどのように行っていくのか、ということについて、先行きが見えない状況となりました。そうした状況の中で、まずは、何から取り掛かろうと考えたときに、新型コロナウイルス感染症が地域の支え合い活動にどのような影響を与えているのかということ把握するため、本日出席いただいている第1層協議体の構成員の皆様あてにアンケート調査を実施させていただきました。ご意見を多数いただき誠にありがとうございました。このアンケート結果を踏まえ、今年度はICTの活用などに着手しています。

- ・【スライド24】

スライド23の第1層協議体構成員の皆様へのアンケート調査に続き、第2層の活動としても市社協としてもミニデイ・サロン等を対象に、今後の地域福祉活動の再開に向けたアンケート調査を実施しました。実施時期が6月から7月にかけてであり、ちょうど1回目の緊急事態宣言が解除された頃です。各団体の皆様から他の団体がどのような活動をしているか知りたいという声が数多くあり、このアンケート調査結果を共有することで皆様の活動の一助になったものと考えています。

・【スライド26】（スライド25は割愛）

昨年度の第1層協議体でも報告したとおり、今年度から、介護サービスや地域のサロンなど社会資源の情報をより簡単に入手できるようなシステム、「地域包括ケア支援システム」を導入しました。これまでもミニデイ・サロンなどの社会資源の情報については、紙ベースでも、適時、提供をしていましたが、インターネットでも情報が入手できるようにしたものです。導入後、アクセス数を集計したところ、稼働開始後の2ヵ月で約1万アクセスに達しました。また、現在も月平均2千～3千のアクセスある状況です。より多くの方にご利用いただけるよう、今後も継続してシステム全体を拡充させていきます。

・【スライド27】

こちらのスライドは本日のWEB会議についての内容です。スライド23の第1層協議体の皆様あてのアンケート調査において、「コロナ禍においてITの活用できないか。」といった意見を複数いただきました。これを受け、私たち地域支え合い推進員としても、「これを機会にITの力で何かできないか」と考え、今回企画したものです。

本日の会議開催に至るまで、まさに手探り状態でしたが、こうしてWEB会議形式で第1層協議体の会議を開催することが出来ました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中では、一堂に会して同じ空間で話し合い、方針を決め、行動するという今までは当たり前だったことが難しい状況にあります。そのような時には、今回のようにWEB会議を取り入れるのも一つの有効な手段であると考えています。

・【スライド30】

茅ヶ崎市生活支援体制整備事業が本格的に開始してからの3年間、皆様から様々な面でご協力いただき、事業を進めることができました。令和2年度は、第7期介護保険事業計画の期間として、一つの節目となりますが、この間、この場で振り返った取組を進めてきた中で、このあとの次第「（3）意見交換」の場において意見や感想をいただければと考えています。令和3年度から令和5年度の3か年を計画期間とする第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画についても、今月末には策定、公表する予定です。第8期計画の3年も、さらにその先も、この事業をより良いものにしていくためにも、引き続き、皆様にご協力をお願いします。

(3) 意見交換

主に次の2点について構成員から意見をいただいた。

- ・今後の茅ヶ崎市生活支援体制整備事業に対する意見
- ・今回の会議（WEB会議）の感想

○ 一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 松井 新吾

コロナ禍が明けた後でもWEB会議を有効活用してほしいと考えています。グループワーク等であれば集まって会議を開催する必要があるが、報告中心の会議であれば本日の会議形式が一般化すると参加しやすくなります。

○ 一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 平本 哲也

ケアマネジャーの立場では、地域のサロンが軒並み閉鎖していると聞いています。我々が事業として実施していた認知症カフェのような取組もコロナ禍により中止を余儀なくされています。集まりたいのに集まることが出来ないという声があり、それを拾えるのがこのささえ愛ちがさきだと思います。こうした検討の場は、次の施策や活動に繋がられる良い機会だと思います。その手段として、本日のようなWEB会議は有効です。どの年代の人でもどの場所からでも参加できるため、是非今後も推進していただきたい。

○ 公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター 杉田 司

茅ヶ崎市では、東日本大震災の前から茅ヶ崎市社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携しながら支え合いに関する取組を行ってきました。飛躍的な成果を上げることは難しいと思うが、第8期介護保険事業計画においてもこの支え合いの仕組みづくりを継続し、皆様と顔の見える関係づくりを続けたいと考えています。本日のWEB会議については、時間などを考えると効果的だと感じました。

○ 茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会 高田 麗

WEB会議については有効だと感じました。本日のような「ハイブリッド形式」であれば、接続環境が無い人も参加することができます。接続環境がある人にとっては利便性が高い。生活支援体制整備事業の取組に関しては、まずこの3年である程度の成果が上がっていると感じています。地域のサロン情報を社協で取りまとめ、インターネットで閲覧できるようにした地域包括ケア支援システムは、現場でも活用しています。今後は、地域共生社会においても参加支援を考える必要があり、「参加」というキーワードが高齢

者に限らず重要になることを踏まえると、小山委員の講演にもあったようにかなり「多様な参加」になることを考えた方がいいと思います。我々のような高齢者にサービスを提供させていただいている者の視点では後期高齢者、その中でも介護保険をよく利用する80歳以上の方の参加が難しくなります。そうした理由から移動支援の課題が上がっていますが、移動そのものを支援するだけでなく、参加できない方に対してのアウトリーチの支援や人間関係のネットワークをこちらの方から提供できるシステムの重要性を今、現場で感じています。

○ 茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会 菊池 利枝

今後の生活支援体制整備事業については、これまでの調査やアンケートなどで見えてきた課題、移送や居場所づくりところの通信の活用をさらに繋げていくと良いと思います。WEB会議については、会議の目的によるが有効だと思います。熱量、雰囲気や場の共有に関しては難しさを感じたが、顔をあわせて話をすることや情報共有が目的の会議であれば今回のようなハイブリッド形式は良いと思います。

○ 茅ヶ崎市地区ボランティアセンター連絡会 習田 祐子

コーディネーター配置事業にて、群れたくはないがそこに行けば誰かいる、誰かとお話ができるというサロンを望む人たちを重視したいという意見がネットワーク会議で出たことをきっかけに、一昨年そうした従来とは違う形式のサロンを作りました。ニーズは多くないが、「自分はいつも一人で閉じこもっているが、コーヒーとお菓子代だけで参加できていいのでしょうか。楽しかった」という声や女性からは「男性とお話ができること魅力だと感じた」といった意見をいただきました。ささやかながらも今後も続けていきたいと考えています。また、地区社会福祉協議会では、「ちょっとしたおせっかいで地域にサロンを」という取り組みを3回ほど実施させていただき、芽が出てきています。これからも人が集える居場所づくりを進めていけたら嬉しいです。今回のWEB会議は楽しみにしていました。今後も勉強し、もっと色々な会議をWEBで開催できればいいなと思います。WEB会議に関してはコロナ禍がよい方向に作用したのではないかと思います。

○ 茅ヶ崎市福祉相談室連絡会議 土屋 和美

WEB会議に関しては有益だと感じました。福祉相談室は、子ども食堂という地域の集まりに顔を出せていただく機会があります。コロナ禍で中止になっているところが多く、厳しい状況ですが、小山委員の講演にもあったように今後は多世代の交流が重要に

なと思っています。

○ 茅ヶ崎ボランティア連絡会 渡辺 多茂夫

小山委員の講演にあったようなアナログレコードやサイフォンコーヒーを活用し男性の参加を促す居場所づくりは凄く良いと思いました。コロナ禍ではどうしたらいいのかと思うが、そうした体験ができればいいなと感じました。本日はWEB会議で皆さんの意見をお聞きできて有意義でした。私は生活支援体制整備事業で本日初めて皆様とお会いしました。仕方ないことではあるが、初の顔合わせがWEB会議というのは従来の会議に比べると身近には感じられないところがありました。しかし、WEB会議は三密などを考えなくて良いことを考えると良いものだと思います。ホスト役は慣れている人が中心になるしかないなので少しでもWEB会議に慣れて進めていけたらと感じました。

○ 特定非営利活動法人NPOサポートちがさき 小山 紳一郎

本日はご清聴いただきありがとうございます。今後は多世代交流に加え、分野横断型の取組が重要です。たとえば、最近では「農福商連携」というキーワードがあります。商店街に高齢者が立ち寄れるスポットを作り、商店街活性化と高齢者の生活支援を同時に実現するような発想です。ところで、現在、茅ヶ崎市には約2000人の外国人住民が住んでいます。110人に1人は外国人という状況です。福祉の分野は、児童高齢、障がいや母子保健など、支援施策が対象者別に分かれています。今後は、外国人との共生も視野に入れる必要があると思います。現在、市の国際交流協会が日本語教室を開催していますが、日本語教室という場合は、言葉を学ぶだけでなく、外国人にとっての居場所にもなっています。この居場所で、日本人ボランティアと外国人住民が互いに共生する社会をデザインしていくことができるのです。今後の課題は、福祉政策の対象として、外国人住民を視野に入れることだと思っています。

○ 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉協議会 藤尾 直史

コロナ禍において地域の方々は試行錯誤しながらも様々なことを展開しています。そうした中で、第2層地域支え合い推進員は他地区の好事例などを情報共有することで活動の活性化を図っていました。ある地区では、通常あれば屋内で開催しているサロンを屋外で「青空サロン」という形式で行っていました。コロナ禍だからこそ新しい発想が生まれています。私たちは様々な地区に「身近な茅ヶ崎市内でこんなことやっている」と広めていく役割があると思います。この先もそうした意識をもって活動していきたいと考えています。WEB会議については、地区でも「ZoomでWEB会議をやってみよう

」といった声が出て、実際に取り組んでいるところもあります。地域でもWEB会議を受け入れる体制が徐々にできていて、第2層地域支え合い推進員はこうした情報も共有しています。

○ 茅ヶ崎市介護予防ボランティア 菅野 京子

WEB会議については、皆様とても多忙であるため、こうした形式で開催できたことは有意義だったと思います。ボランティア活動でも講演会やいろんなものがWEB会議で開催されていますが、私はWEB会議の環境が無いため勉強したいと思っています。

この1年間、新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者と触れ合ったり一緒に体操したりといったボランティア活動ができず残念でした。こうした状況がいつまで続くのかと感じています。先が見えないのが今の気持ちです。

私は辻堂駅の近くでコミュニティカフェを開いていますが、飲食を扱っているためこちらも上手く活動することができませんでした。一日でも早く支え合えるようになることを祈っています。

○ 茅ヶ崎市地区社会福祉協議会連絡協議会 鈴鹿 隆司

今日は初めての体験をさせていただき、勉強になりました。来年度からコーディネーター配置事業が13地区すべてで実施されるようになります。ネットワーク会議も今回の会議と同じような形式で進めることができれば良いと感じました。自分自身勉強不足なところがありますが、ボランティアセンターにWEB会議のシステムを導入し、そこから我々が参加できるようになれば良いと思いました。さらに、地区社会福祉協議会やボランティアセンターの役員数名程度が傍聴できれば、後々地区単位での運営進むのではないかと感じました。こうしたWEB会議は今後勉強していく必要があると感じました。

○ 茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会 三觜 健一

本日はあらめて福祉関係の勉強をさせていただきました。地域では特に福祉関係で様々な事業の団体や立場の人たちがいます。まちぢから協議会の関係者という立場から言えば、本日の会議もそうですが、各地区のボランティア関係、社会福祉協議会やその他各所で福祉関係の事業を行う中、地域としてはどこが窓口で取りまとめをしていくか、また、各団体の交流、情報交換をどのような形で行うかが地域では問題になっています。WEB会議については、私は慣れていませんが、今後はこうした形式で会議をすることが増えていくと思います。私どもの方も各地区の福祉関係の施設で、高齢者も含めてこうした会議に慣れていくような環境を構築できればと思います。

○茅ヶ崎市福祉政策課 大川 寿之

私は平成28年度まで高齢福祉介護課に所属し、生活支援体制整備事業は準備段階まで携わっていました。どうなるだろうかと心配していましたが、地域と市と社会福祉協議会が連携してアンケートを実施し、地域課題などを共有するなど皆様が一心に取り組んでいて驚きと喜びを感じています。地域包括ケア支援システムは情報が整理されていて非常に使いやすいです。コロナ禍で活動が制限されて大変な状況ですが、地域支え合い推進員が中心になって状況把握や情報共有を行うことで少しでも支援を進めていただければと思います。先ほど高田委員から話があった地域共生社会については、その実現に向けて新たな包括的支援体制構築のために令和4年4月から福祉政策課内に総合相談窓口を設置し、相談支援を行う予定です。今後よろしくお願いします。WEB会議については目的や内容によるが非常に有効だと感じました。

○ 茅ヶ崎市高齢福祉介護課 臼井 高之

生活支援体制整備事業では、昨年度はアンケートの結果報告書を作成しました。本来であれば、今年度は積極的に地域にうってでていこうと考えていましたが、コロナ禍において軌道修正を強いられました。本日、皆様の意見を伺う中で印象に残ったのは、生きがい作りにおいて大切なことは「居場所」と「出番」であることです。その2つが揃って生きがいというものが生まれることをあらためて感じました。WEB会議については対面で集まることが理想ですが、事情がありそもそも移動ができない方にとっては、WEB会議は非常に可能性があるものだと感じました。参加できない方にも届けるという観点では、対面で集まることに加え、こうしたオンラインの活用はコロナ禍がめでたく収束したとしても続ける必要があると感じました。皆様からはこの3年間を振り返った上での大変参考にご意見をいただきました。いただいたご意見を活用させていただきながら、今後も生活支援体制整備事業に取り組んでまいります。

(4) その他（生活支援体制整備事業に係る第1層協議体構成員の推薦について）

○ 茅ヶ崎市高齢福祉介護課 吉川 宗孝

現在の第1層協議体構成員の任期は第7期介護保険事業計画の3年間です。については、各団体から第8期介護保険事業計画（3年間）の構成員について選出をお願いします。生活支援体制整備事業の実施要綱上、再任でも問題ありません。各団体で協議の上、推薦状の提出をお願いします。

3 閉会

○（茅ヶ崎市高齢福祉介護課 臼井 高之）

生活支援体制整備事業はまだまだ手探りで進めていますが、皆様からのご助言等をいただきながら、少しずつではありますが事業の形が出来上がりつつあります。引き続き様々なところでご助言等をいただけますと幸いです。以上をもちまして本日の会議を終了といたします。本日は皆様本当にありがとうございました。